

# 急性骨髓性白血病ニ於ケル耳鼻咽喉科領域所見

金澤醫科大學耳鼻咽喉科學教室 (主任松田教授)

津 田 三 郎

*Saburo Tsuda*

(昭和16年12月11日受付)

(本論文ノ大要ハ大日本耳鼻咽喉科會北陸地方會第56回集會ニテ論述セリ).

## 内 容 抄 録

白血病ハ耳鼻咽喉科領域ト密接ナル關係ニアリテ、其領域内ニ多クノ病變ヲ伴フモノナリ急性骨髓性白血病ノ100例ヲ蒐集シ之ガ初發及ビソノ經過ニ就キ觀察

セルニ、ソノ初發ニ該病變アルモノ67例、經過中ニ發來ヲミタルモノ92例ノ多數ニ及ベリ。

## 目 次

第1章 緒 言  
第2章 觀察症例  
第3章 總括並ニ考按

第4章 結 論  
參考文獻

## 第1章 緒 言

1845年 Virchow 初メテ Weisses Blut トシテ本病ヲ發表シテヨリ諸學者ノ研究相踵イデ現レタリ。サレドソノ本態ニ關シテハ未ダ決定的ノ解決ハ與ヘラレズ。

即チ Ehrlich ハ骨髓性白血病ニ於ケル骨髓性細胞ノ増殖ハ専ラ骨髓ニテ行ハレ、血行ニヨリ他ノ臟器ニ輸送セラル、ト言ヒ、Papenheim ハ脾臟、肝臟、稀ニハ淋巴組織内ニ於テモ新生セラル、ト説キ、果シテ何レガ眞ナルヤ疑問ナリ。尙淋巴性細胞又ハ骨髓性細胞ガ如何ニシテ組織内ニテ發生増殖シ、以テ白血病ヲ惹起スルヤ等未ダ解決ノ域ニ達セズ。

本病ノ原因ニ關シテハ1種ノ傳染性疾患ナリト言ヒ、或ハ1種ノ腫瘍ナリトナシ、或ハ又白

血病ヲ起ス素因ヲ有スル潰瘍ヨリノ傳染ニヨルモノナリト言ヒ、又中毒説ヲ擧グルモノアリ。

而シテ現今淋巴性及ビ骨髓性ノ2種ニ區別サレ、共ニ造血臟器ノ増生ト血中ノ白血球ノ増加及ビ赤血球ノ減少ヲ來スモノニシテ、急性骨髓性白血病ニ於テハ多クノ場合骨髓母細胞多數出現シ、之ハ淋巴球ニ類似スルヲ以テ以前ハ急性白血病ハ總テ淋巴性ナリト看做サレタリ。後ニ到リ「オキシダーゼ」反應ノ應用、染色法ノ改良、ソノ他ノ研究ニヨリ、淋巴性ト看做サレタルモノノ一部ニ骨髓性症ノ存在スルコト明ラカトナレリ。

急性淋巴性症ハ多クノ場合著明ノ淋巴腺腫ヲ發生シ、之ニヨリテ容易ニ發見セラル、ニ對

シ、急性骨髓性症ニハ著明ノ脾腫或ハ淋巴腺腫等ヲ缺クモノ多ク、從ツテ他疾患トシテ看過セラルハコト多キモ、以上ノ諸點ニ留意シ諸種血液検査ヲ行ハバ發見容易ニシテ骨髓性症ハ淋巴性症ヨリ遙カニ多數存在スルモノト思考セラルベシ。

本症ハ鼻腔又ハ咽頭ニ於ケル病變ヲ以テ發病スルコト屢々ナリ。

即チ衄血、口腔粘膜及ビ扁桃腺ノ出血、潰瘍、壞疽等我科専門家ノ臨時モ忽ニスベカラザル所ナリ。

嚮ニ我教室種村、豊田、栗山3氏ニヨリ急性

淋巴性白血病ニヨリ耳鼻咽喉科領域ニ出現スル所見ニツキテハ詳細ナル發表アリ。

余ハ最近口腔ニ病變ヲ來セル急性骨髓性白血病ノ2例ヲ經驗シ、骨髓性症ニ於テモ我科領域ニ諸種病變ノ發現アリタル先人ノ症例ヲ認メタリ。

成書ニハ骨髓性タルト、淋巴性タルトヲトハズ臨牀的症狀ハ兩者略々同様ナリト記載サレアルモ、敢ヘテ茲ニ最近9箇年間ニ於ケル骨髓性白血病ノ100例ヲ蒐集シ耳鼻咽喉科領域病變ノ觀察ヲ行ヘリ。

## 第2章 觀察症例

蒐集セル100例ニ就キ種村氏等ノ項目ニナラヒ之ヲ摘録セントス。

第 1 表

症例番號	報告者	性	年齢 年月	初 發 症 狀	貧血	淋巴腺腫脹	脾腫	其 他
1	石 橋	♀	14.	全身ニ針尖大赤色斑點無數。衄血。齒齦出血	+	頸部、腋窩、肘部、鼠蹊部、豌豆、鳩卵大	+	
2	國 武	♂	13. 4	時折齒齦出血。頭痛眩暈	+	—	—	視力障礙
3	島 崎	♂	32.	惡寒戰慄。耳鳴難聽。出血性素因	+	—	+	視力障礙。網膜出血
4	山田 平井	♂	9. 5	頭痛。倦怠。衄血。顔面蒼白	+	頸部 1, 2 箇扁豆大	—	關節痛
5	柏 原	♀	34.	惡寒發熱。齒齦出血。腫脹。潰瘍	+	—	—	—
6	柏 原	♂	52.	前頭部外傷後20日ニシテ惡寒發熱	—	腋鼠蹊窩數箇	+	—
7	東	♂	4. 5	左眼外傷後發熱腫脹。眼球突出。鼻閉齒齦腫脹	—	頸部腫脹	—	—
8	菅大 野林	♀	28.	發熱。步行時眩暈。全身倦怠。顔面浮腫	+	頸、顎下部指頭大鳩卵大	+	尿蛋白
9	草 野	♂	11.	右大腿自發痛腹痛下痢。發熱。排尿障礙。左眼突出	+	—	+	—
10	渡 邊	♂	33.	兩頸腫脹。疼痛。咽頭痛。腋窩鼠蹊。ソノ他淋巴腺腫脹	+	全身淋巴腺腫脹	+	—
11	矢 倉	♀	16.	高熱。咽頭痛。口臭	+	兩顎下腺	—	—
12	三水 村島	♂	不明	左下顎齒齦及同側頰部一面ニ亘ル腫脹。浸潤。發熱	+	腫脹著シカラズ	—	—
13	木 内	♀	36.	齒齦炎後發熱。齒痛。咽頭痛	+	顎下部輕度	—	—
14	高 橋	♂	63.	全身倦怠。惡寒。頭痛。食思不振。口臭。呼吸困難	+	—	—	—
15	仁志田	♂	18.	左上門齒拔牙後15日ニシテ熱感。頭痛。倦怠。齒齦腫脹。出血潰瘍	+	—	+	—
16	北 野	♀	23.	發熱。咽頭痛。衄血。齒齦出血	+	—	—	胸骨脛骨叩打痛
17	田 村	♀	7. 7	食思不振。全身倦怠。瘦削	+	頸部、腋窩米粒大數箇	+	—
18	三 浦	♀	32.	食思不振。惡寒發熱。頭痛。心悸。亢進。黑色尿。月經期間長シ	+	—	+	胸骨叩打痛

19	澤田	♂	18.	發熱. 齒齦出血. 兩側難聽. 頭痛	+	頸部 鼠蹊部 輕度	++	胸脅打壓痛
20	吉永	♂	8.	發熱. 顎下部腫脹. 右頰部腫脹. 口臭	+	鼠蹊, 腋窩, 大豆大	±	
21	天野	♀	4. 3	右耳後方, 前額中央ニ示指頭大ノ腫瘍生ジ皮膚暗赤色トナル	-	頸部, 鼠蹊部	++	
22	天野	♂	7.	貧血. 腹部膨滿	+	頸, 腋窩, 鼠蹊帽針頭, 豆大	++ (大)	
23	眞藤	♂	28.	衄血. 齒齦出血. 高熱			+	
24	藤木	♂	24.	齒齦疼痛. 出血全身倦怠. 發熱	+	頸部, 顎下部	-	
25	高津	♂	5. 6	倦怠感. 足背膝ノ皮下出血. 齒齦出血	+	頸部 鼠蹊部 米粒大	+	
26	上坂	不明	12.	惡寒. 發熱. 咽頭痛		-	+	咽頭ヨリ「デフテリー」連鎖狀球菌, 雙球菌ヲ證明ス
27	森重	♀	1.10	發熱. 不機嫌. 口ヨリ流涎ト共ニ出血アリ. 口臭	+	頸部 顎下僅ニ腫脹	++	
28	木田	不明	. 8	出血シ易キ濕疹. 下顎直下ニ拇指大ノ淋巴腺腫大. 眼球突出. 衄血顔, 下肢浮腫. 兩顎腫脹. 心悸亢進. 貧血. 難聽		++	+	右顔面神經麻痺, ミクリツツ症狀群ヲ呈ス
29	稻積, 浦坂, 外山	♂	24.		+	顎下部, 頸部	-	
30	都築	♂	55.	左顎下部ノ腫脹. 咽頭痛		兩顎下部鳩卵大肘, 鼠蹊部小指大	+	
31	森戸	♀	6.	發熱. 腹部膨隆	+		+	
32	松尾	♂	21.	全身倦怠. 發熱. 衄血(2回)	+	右頸拇指大, 兩腋窩鼠蹊多數	-	
33	小川	♂	20.	感冒様症狀	+		+	
34	佐藤	♀	20.	全身倦怠. 食思不振. 咽頭痛. 嚔下困難. 口臭		頸部	-	
35	栃原	♂	42.	齒齦出血. 發熱	+	左顎下腺	-	
36	村田	♂	. 4	不機嫌, 發熱. 咳嗽. 腹部膨隆	+	-	+	
37	清原	♂	21.	左顔面神經麻痺. 兩坐骨神經痛ニテ入院	+	-	-	
38	佐田	♂	6.11	外傷後時折衄血. 發熱	+		-	
39	中古	♂	37.	發熱. 血液膿様鼻汁	+	-	±	
40	長田	♂	4.10	約3ヶ月前急性喉頭炎及假性クループニ罹リタル後ニ漸次元氣消退	+		+	
41	浦島	♂	32.	惡寒戰慄. 齒痛. 咽頭痛. 發熱	+	頸部 鼠蹊部 1乃至3箇	-	
42	浦島	♂	14.	咽頭痛全身倦怠	+		-	
43	大野	♂	32.	左下顎白齒部ノ腫脹. 疼痛			+	
44	廣野	♀	62.	左頰部腫脹ト共ニ發熱			+	齒齦粘膜ニ切開ヲ加ヘタルモ出血多量本病ハ「デフテリー」肺炎後ニ發病ス
45	飯間	♀	5.	鼻汁過多. 呼吸惡臭. 嚔下困難. 咳嗽等ニテ左口蓋扁桃腺ニ義膜ヲ「デフテリー」菌ヲ證明. 血清注射後ニ義膜トシテ惡感發熱. 左咽頭痛. 嚔下痛	+	兩顎下部鵝卵大	+	
46	高楠	♀	26.	發熱. 咽頭痛. 嚔下困難. 牙關緊急アリ. 扁桃腺周圍膿瘍切開後頭痛. 全身倦怠. 食思不振アリ. 扁桃腺壞疽トナル		頸部	+	
47	高楠	♀	28.			全身	+	
48	岩田	♂	49.	發熱. 齒齦出血		右耳下大豆大1, 顎下同大2, 右頸部豌豆大	-	
49	大南	♂	22.	發熱. 齒痛	+		-	齒科ニテ齒齦充血部ヨリ切開シ瀉血サル
50	後砂	♂	29.	惡寒. 發熱. 咽頭痛. 發音障礙アリ	+		±	
51	松江	♂	55.	發熱. 齒齦出血. 咽頭痛	±	顎下部拇指頭大顎部, 鼠蹊部小指大	±	
52	高橋	♀	9.10	發熱. 胃腸障礙			+	
53	中村	♂	19.	惡寒. 發熱. 齒齦出血	+	-	±	
54	淺野	♀	67.	兩前下腿ノ膿疱様紅疹. 兩膝關節ノ腫脹疼痛	+	兩頸部輕度	-	

55	兒平	玉山	♂	58.	齒齦出血。皮下溢血斑	+	頸部顎下部小豆大 多數腋窩豆大3箇	-	鼠蹊部豌豆大, 扁 豆大5乃至6箇
56	宮内	橋	♂	38.	貧血。發熱。頭痛	+	頸部, 顎下部輕度		
57	大橋	村	♂	22.	發熱。齒齦腫脹。疼痛	+	-		
58	中村	田	♂	25.	上顎智齒部粘膜潰瘍。發熱。嚙下 痛	+	顎下部數箇	-	
59	山下	不明	不明	53.	發熱。齒痛。齒齦出血	+		-	
60	陣内	不明	不明		深吸氣時右胸痛。盜汗。息切レ。 全身倦怠				
61	金井	井	♂	44.	全身異和。心悸亢進。齒齦出血。 視力障礙。重聽耳鳴眩暈	+	全身淋巴腺豌豆及 ビ鳩卵大	(+) 輕度	
62	廣瀬	村	♀	23.	咽頭痛。嚙下痛。頸腺腫脹。發熱	-	右頸部		
63	有村	橋	♂	. 8	顔面蒼白。熱發。羸瘦	+	-	+	
64	高橋	井	♂	23.	全身異和。膀胱直腸障礙。血尿	+		-	膀胱出血アリ
65	石井	野	♂	42.	惡寒。下痢。粘液性血性便。視力 障礙	+	頸部大豆大1乃至 2箇	+	赤痢ヲ合併ス。
66	駒野	加藤, 奥澤	♀	48.	發熱。頭痛。肋骨下肢。足部, 腕 部ノ骨痛	+	兩頸部豌豆大	-	
67	吉矢, 加藤, 奥澤	田	♀	. 6	約1週間前右上腿内側ノ青紫色ノ 硬結。食思不振。不機嫌	+	頸部米粒大多數	+	胸部兩側水泡音多 數
68	富田	崎倉	♀	35.	咽頭痛。高熱。口臭。輕度ノ牙關 緊急	+	-	-	
69	山崎	倉	♂	20.	衄血。咽頭痛	+			
70	石關	野	♂	11.	發熱。兩顎下部腫脹。疼痛	+	顎部小豆大數箇	+	右急性肺炎合併
71	平野	本	♂	31.	衄血。齒齦出血	+	兩頸部	+	
72	松本	岩	♀	57.	齒齦出血。嚙下痛。發音障礙	+	-	-	
73	虎岩	路	♀	57.	貧血。耳鳴。齒齦出血	+	-	-	
74	陸路	路	♀	1. 1	2週間前扁桃腺炎後發熱。下肢ノ 點狀出血。貧血	+	-	+	
75	陸路	路	♂	5. 3	兩側耳下部腫脹。齒齦出血及浮腫	+	右耳下部顎下部腋 窩, 鼠蹊部	+	
76	陸路	路	♀	12. 2	發熱。頭痛。浮腫	+	右頸部1箇	+	
77	陸路	路	♀	3. 6	發熱。顔面蒼白	+	-	+	
78	陸路	路	♂	4. 2	腹部膨滿。皮下出血	+	頸部, 鼠蹊部腋窩 小豆大1箇	+	
79	陸路	路	♀	4. 6	頸部淋巴腺腫脹(示指頭大ノモノ 數箇)	+	+	+	
80	陸路	路	♂	7. 4	皮膚蒼白	+	頸部鼠蹊部扁桃腺 大數箇	+	
81	陸路	路	♂	. 4	發熱。皮膚蒼白。顎部下顎部點狀 出血	+	各淋巴腺小豆大	+	W.R.Pirquet(-)
82	陸路	路	♀	6. 8	皮膚蒼白。腹部膨滿。點狀出血	+	輕度	+	
83	陸路	路	♂	. 4	顔面蒼白。輕咳。惡心嘔吐。呼吸 困難	+	腋窩, 鼠蹊各2箇 米粒大	+	
84	陸路	路	♀	. 7	腹部膨隆。皮膚蒼白	+	顎下部, 腋窩, 鼠蹊豆 大ヨリ示指頭大數箇	+	
85	陸路	路	♀	1.11	皮膚蒼白。浮腫及腹部膨滿	+	輕度	+	W.R.Pirquet(-)
86	陸路	路	♂	9. 1	皮膚蒼白。出血性素質腰痛(胸骨, 胸椎, 腰椎薦骨部ニ叩打痛アリ)	+	-	-	W.R.Pirquet(-)
87	安宅	井原	♂	50.	發熱。全身倦怠。舌。齒齦出血	+	-	+	胸骨打壓痛
88	楠柴	井	♀	60.	發熱。顔面浮腫。心悸亢進	+	+	-	
89	薄井	井	♂	30.	發熱腹痛アリテ蟲垂切除ヲナスモ蟲 垂炎ノ症狀著明ナラス。凝血ヲ吐出ス	+	-	-	W.R.(+)
90	吉茂	井	♂	28.	發熱。齒痛。齒齦腫脹出血	+		-	

91	山口	♀	21.	齒齦出血	+		-	
92	山口	♂	22.	齒齦及頰部ノ疼痛, 腫脹		-	-	
93	牧野	♀	26.	金冠除去後齒齦腫脹シ拔牙スルモ輕快セズ. 腫脹部壞疽トナル	+	顎下部	-	
94	吉山	♀	17.	上下齒齦ノ腫脹, 潰瘍	+	顎下部	-	
95	大吉山	♂	24.	頰血. 齒齦腫脹, 潰瘍	+	左顎下部	-	右顔面浮腫狀
96	大吉山	♀	39.	齒痛アリテ拔牙後出血多量, ソノ後解熱セズ. 左上顎潰瘍トナル	+	左顎下部		
97	大吉山	♀	14.	上齒齦腫脹, 潰瘍, 壞疽, 出血	+	-	-	胸骨下端壓痛
98	岩井	♂	25.	1週間前ヨリ腹痛アリ. 黒色便排出シ, 3日前ヨリ突然齒齦出血	+	-	-	
99	津田	♂	33.	發熱, 上顎腫脹, 疼痛	+	兩顎部	-	
100	津田	♂	52.	全身倦怠, 齒齦出血	-	-	-	

第 2 表

症例番號	報告者	赤血球 (萬)	血色素 (%)	白血球 (萬)	骨髓母細胞 (%)	前骨髄細胞	骨髄細胞	異骨髄細胞	中性嗜好桿狀	中性嗜好分葉	淋巴球	大單核	エオジン	鹽基	プラスマ	オキシダーゼ反應
1	石橋	241.0	35	6.8830												
2	國武	172.0	24	1.6000	6.4	51.6	9.4		7.0		8.4	0.4		0.4		(+)
3	島崎	減少		增加	69.0											(+)
4	山平	126.5 (72)	24 (14)	8.6200 (140300)	83.5	中性骨髄細胞成熟形	3.5	1.5	0.5	2.5	7.5	1.0				
5	柏原	320.0	52	1.2600		56.0	20.8	6.7	7.9	1.0	7.0					
6	柏原	403.0 (240.28)	80 (40)	7.7750 (99000)	76.0 (96.0)		6.0 (1.0)	10.0 (2.0)	2.5 (0.5)		5.5 (0.5)					
7	東	175.0	40	1.02	13.0		3.0		11.5		64.0	5.0				
8	菅野	429.0	62	2.86	モノクローナル細胞		1.0			1.0	17.0	7.0	1.0			(+)76(-)24
9	草野			24.0												
10	渡邊	329.0	52	17.7	32.5	18.5	15.5	14.0	5.0	11.0	3.5					
11	矢倉	424.0 (274.5)	74 (53)	2.8 (14.4)	44.0	3.0	15.0	6.0	2.0	3.0	16.0	10.0	1.0			
12	三水	356.0	34	2.36	80.02	13.03	2.25	1.0			2.5					ペルオキシ (+)88.6 (-)11.4
13	木内	307.0	55	0.9	15.0	21.0	2.0	1.6	1.0	3.2	22.0		1.6	1.6	7.6	
14	高橋	94.0	12	凡ソ 9.0	44.0	10.0	25.0									
15	仁志田	429.6	75	2.34 (8.87)	7.2	80.0	2.0	2.0	1.6	1.6	2.4	1.6	1.2	0.8		ペルオキシ (+)
16	北野	160.0	32	44.3	1.0	2.8	57.8	3.8	25.3		7.6	0.5	3.5	0.5		
17	田村	71.0	15	0.99 (3.66)	85.0											(+)
18	三浦	188.0	20	10.84	97											(+)
19	澤田	142.5	24	46.32	60.25	12.75	14.5	1.25	2.25	1.25	7.0	0.75				
20	吉永	186.0	35	47.96	36.1	49.9										90%以上(+)
21	天野	375.0	74	1.24	10.0				3.0	22.5	6.3	1.0				

22	天野	301.0	40	4.03	46.0				1.0	25.0	49.5		0.5	0.5	
23	眞砂														
24	藤田	263.0	57.5	5.82	4.4	85.8	5.8	0.6	0.5	0	1.0	0		1.0	
25	高津			增多	31.5 (97.0)										
26	上坂	311.0	50	2.3	54.5		33.5	6.5			3.5				
27	森重	156.0	24	28.0	81.0	7.5		2.6	0.3		8.6				(+)
28	木田	負血 アリ		62.5			10.0				85.0				ペルオキシ オキシ 90%(-)
29	稻積, 浦 成, 外山	264.0 (64.0)	35 (13)	1.84 (4.20)	93.5 (95.5)	様單核	白血球 (0.5)	(0.5)		5.5 (5.0)					
30	都築	313.0		2.51	87.0										
31	森戸	250.0 (117.0)	56 (40)	55 (112.6)	95.05 (91.4)	0.6	0.2 (0.25)	0.35 (0.45)	1.2 (1.0)	1.35 (1.6)		0.55 (0.25)	0.45 (0.1)	0.05	0.2 (0.1)
32	松尾	115.0	35	1.6		胎下 本細胞									
33	小川	122.4		1.74	5.0	39.5	4.0	9.5	12.5	15.5	14.0				
34	佐藤	437.0	64	4.60	54.4	15.4	14.8	3.6	4.6		6.4	0.6		0.2	
35	栃原	233.2	55	2.635	1.5	87.7			0.5	0.5	1.3	0.3	0.1	0.2	
36	村田	255.0		9.62	73.0										
37	清原	84.0	17	7.235	16.0	55.0	10.0	7.0	1.0	1.5	7.0	2.5			ペルオキシ(+) オキシ(-) 85%
38	佐藤	71.0	15	7.4											
39	田古	221.6 (58.4)	54 (15)	1.645 (0.925)	30.6 (10.6)	9.8 (16.8)	2.8	0.4 (1.2)	5.2 (11.8)	22.4 (38.0)	26.8 (17.4)	1.0 (0.6)	0.6 (0.8)	0.4	
40	田福	減少		增多	出現	出現									
41	蒲島	152.0	38	1.3	47.0(大) 41.0(小)	5.5	0.5	2.5	1.0	0.5	2.0				
42	蒲島	208.0		0.22	28.5(大) 54.0(小)	2.5			3.5	12.5	4.0(大) 3.5(小)			0.5	
43	大野														
44	廣飯				6.1		5.5								
45	間邊	172.0	25	13.0 (餘)	38.0 以上		9.2								
46	高楠	180.0	53	6.37	80.0										
47	高楠	245.0	62	7.0	90.0										
48	岩田	227.0	42	12.62	87.0	1.5		1.0	0.5	0.5	0.5				
49	大南	301.6 (76.0)	80 (20)	5.16 (0.98)	82.0 (2.0)	1.0 (0.7)	0 (4.0)	2.0 (7.0)	0 (10.0)	0.3 (78.0)	2.0 (0.3)	4.0 (0)			(卅)
50	後砂	314.0		0.54	27.0	23.5	32.5		6.5	3.5	6.0			0.5	刺戟型 0.5
51	松江	186.4	45	3.4	84.0	6.0	0.5	0.5	2.0	2.0	3.5(大) 0.5(小)	3.0			
52	高橋	424.0	57	5.67	1.3		78.4	1.4	2.0		2.4			0.4	
53	中村	588.0	70	0.405	33.5	5.5			2.0	18.0	17.5	1.0	2.0	0.5	
54	浅野	205.0	47	17.0	3.0	81.0	4.5	1.0	0.5	6.0	3.5				
55	兒平	171.0	32	137.0	約										ペルオキシ (+)
56	宮内														
57	大橋	301.6	80	5.16	82.0	10.0		2.0		0.3	2.0	4.0			(+)

58	中村	475.69	80	0.69			68.5	3.5	2.0	7.0	11.0	6.5	1.5	0.5	
59	下田	160.0	30	0.6	14.0	50.5	15.5		3.0	2.0	13.0				ペルオキシ (+)
60	下山内	448.0	68	1.45	65.3	28.3	1.3	1.3	0.3		3.3				ペルオキシ (+)
61	金井	108.0	20	3.36	31.3	24.7	11.7		16.0		14.3	1.7	0.3		ペルオキシ (+) 86.5 キシ (-) 13.5
62	廣瀬	419.0	48	13.46	94.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.4	2.8		0.1	1.8	ペルオキシ (+)
63	有村	213.0	32	3.68	3.0	41.0	32.0		7.0		15.5	1.5			
64	高橋	265.0	52	0.4 (5.22)	73.4	1.5	1.0	1.2	3.4		3.4(大) 12.0(小)	4.1			(+) 85.5 (-) 14.5
65	石井	74.5			出現		出現								(+)
66	駒野	88.0	28.8	0.29	67.6				1.2	0.8	32.0		0.4		(-)
67	吉矢, 加藤, 奥澤	208.0	24	10.04	19.5		8.5		37.0		21.5	14.5			
68	富田	209.0	47	6.63	11.5	61.5	5.0		1.0	0.5	14.5	5.0		1.0	
69	山崎	250.0		0.23											
70	石關	496.0		1.8	22.4	65.6	1.6		1.2		2.4	2.4	3.2	0.4	
71	平野	199.0	36.5	3.83	38.5	5.0	4.0	6.0	7.0	28.0	5.5		5.5	0.5	
72	松本	279.0	55	15.355	95.6	1.6		0.4	0.4	1.2				0.4	
73	虎岩	200.0		0.54	74.1	4.0	1.1	4.0	6.3	2.8	7.4				
74	陸路	170.6	28	8.77	91.2	0.8				0.8	3.6	1.2	1.2		
75	陸路	162.4	17	20.58	97.0	0.5				1.5	0.5	0.5			
76	陸路	178.4	40	9.28	87.2					4.0	8.0	0.8			(-)
77	陸路	126.4	25	17.76	96.0		0.8			1.6	1.6				
78	陸路	173.6	50	2.18	49.0		2.0			15.0	13.0	10.0		1.0	1.0
79	陸路	216.8	60	4.04	87.2		1.6			4.8	4.8	0.8			0.8
80	陸路	220.8	40	4.78	89.0					5.0	4.0	1.5	0.5		(-)
81	陸路	88.0	17	9.78	97.5					1.5	0.5				(-)
82	陸路	220.0	30	27.2	95.6					0.4	4.0				
83	陸路	264.32	28	86.88	98.5	0.5				0.5		0.5			
84	陸路	273.6	68	18.74	25.0	1.5	5.0	15.5	33.5		9.0	4.0	1.5	4.5	
85	陸路	435.6	45	6.9	10.4		3.2	6.4	69.6		22.4	6.4	0.8		0.8
86	陸路	142.0	30	1.7	72.8		1.6	11.2			14.4	0.8			1.6
87	安宅			2.88	(大部ヲ占ム)										(-)
88	楠井	145.0	26	0.24	3.5	32.5	0.5	0.5	1.5	5.5	55.0	1.0	0.5		
89	薄井	344.0	67	6.7	11.0	40.4	17.43	16.5	8.25 5.5		0.91				
90	吉茂	158.0		6.56 (7.95)	67.5	11.5	14.0	5.0	1.5						
91	山口	320.0	52	0.7333 (5.9725)	8.0	64.0	1.0	0.1		2.0	22.0	2.0		1.0	
92	山口	370.0	48	1.98	46.0	22.0	18.0	4.0		1.0	6.0	1.0	2.0		
93	牧野吉	421.0	72	0.2025	10.5	19.75	4.5	2.75	2.5	6.75	46.75				

94	山永	146.0	42.8	4.06	92.8			2.2	0.4	0.8	3.0				
95	山永	323.0	42	14.1	96.5				0.2	0.4	2.9				
96	山永	399.0	28	2.3	40.6	0.6	0.6	2.2	0.4	2.6	50.4	0.8	0.6	0.6	
97	山永	437.0	43	0.46	54.6	0.1	1.6	1.4	0.2	0.6	40.8			0.2	
98	岩井	79.0 (343.0)	21 (54)	5.61 (0.36)	70	87.5	1.0	0.5	0.5	1.5	1.5	0.5			
99	津田	157.0	48	1.20	3.5	73.5	9.0	1.5	2.5		10.0				
100	津田	319.0	63	0.75	44.0	25.0	3.0	4.5	2.5	1.5	19.0	1.0			

第 3 表

症例番號	報告者	聴 器	鼻腔及副鼻腔	口 腔	口蓋扁桃腺	其 他	轉 歸
1	石 橋			齒齦紫藍色，潰瘍トナリ出血ス			記載ナシ
2	國 武			齒齦出血	肥大	咽頭發赤	入院後6日，齒齦出血後3ヶ月死亡
3	島 崎	耳鳴		齒齦出血			入院後10日死亡
4	山平			上下齒齦，口蓋扁桃腺ノ壞疽的出血(末期)	兩側共出血斑アリ汚染ス		發病後1ヶ月死亡
5	柏 原			口臭，軟口蓋，齒齦ノ腫脹，潰瘍壞疽			全經過35日
6	柏 原			口腔粘膜，齒齦出血(末期)		球結膜下出血	發病後1ヶ月死亡
7	東 野		全ク閉塞ス	齒齦腫脹シ出血シ易シ			第48病日死亡
8	菅大			口臭，齒齦腫脹，出血壞疽	兩側腫脹	咽頭發赤	記載ナシ
9	草 野	兩難聴	衄血	齒齦出血			記載ナシ
10	渡 邊		衄血(末期)	齒齦出血(末期)			全經過2ヶ月
11	矢 倉			口腔粘膜發赤腫脹シ諸所ニ潰瘍アリ	右發赤腫脹ス，兩側ニ小潰瘍，小出血アリ		記載ナシ
12	三水			齒齦腫脹シ淺キ潰瘍アリ			口腔症狀輕快ニヨリ内科的ニ治療中
13	木 内			舌白苔，齒齦充血，腫脹	兩側腫脹充血		入院後14日死亡
14	高 橋	難聴		口臭，齒齦潰瘍壞疽，咽頭口蓋少數出血點		嘶啞發音障礙アリ	入院後9日死亡
15	仁志田			口臭，齒齦腫脹，潰瘍，壞疽			發病後半月死亡肺炎ヲ合併ス
16	北 野		衄血	口臭，齒齦腫脹，壞疽出血	兩口蓋扁桃腺口蓋垂口蓋弓ニ深キ潰瘍アリ		死亡
17	田 村		鼻閉(末期)	口蓋垂，咽頭，灰白色，末期ニ壞疽トナル	左點狀出血		呼吸困難ヲコシ入院後2ヶ月日ニ死亡
18	三 浦	耳鳴(末期)					發病後20日目死亡
19	澤 田	左難聴(末期高度)		齒齦出血，頬粘膜豌豆大潰瘍	兩側腫大シ表面壞疽狀出血ス		記載ナシ
20	吉 永		鼻孔痂皮ニ閉サル	齒齦發赤腫脹一部壞疽	牙關緊急強ク咽頭迄腫脹セルモノノ如シ		入院後3日死亡
21	天 野			口腔粘膜出血斑		咽頭蒼白	發病後2ヶ月呼吸困難ニテ死亡
22	天 野			口腔粘膜貧血狀		咽頭蒼白	記載ナシ
23	眞 砂		衄血	齒齦出血			記載ナシ
24	藤佐々	兩側慢性中耳カタル	(キ)氏部血管怒張シ右下甲介ニ凝血附ス	5, 6 附近ノ齒齦出血	左口蓋及前口蓋弓ニ數箇ノ潰瘍アリ		發病ヨリ2週間入院後6日死亡
25	高 津		衄血	齒齦出血，口臭			發病後4日目死亡



26	上坂	兩鼓膜僅ニ發赤			該部及口蓋帆ニ義膜アリ所々壞死ニ陥ル	デフテリー菌ヲ證明	發病後8日入院後2日死亡
27	森重			齒齦腫脹、潰瘍、所々ニ粘膜炎、上顎ノ口蓋粘膜炎	兩側腫脹スルモ他著變ナシ		記載ナシ
28	木田		衄血	舌ソノ他ノ粘膜炎出血易シ			發病後4-5日死亡
29	稻積、浦成、外山	兩側濕性中耳炎難癒(主)		齒齦出血		白血病性網膜炎	入院後1ヶ月死亡
30	郡築			齒齦腫脹	腫大シ灰白苔アリ剖檢ニヨリ壞疽性潰瘍アリ		入院後23日
31	森戸			齒齦ニ潰瘍アリ、口臭強シ	腫脹ス		入院後9日
32	松尾	カタル性中耳炎兩化膿性(末期)	右キ氏部ヨリ出血	軟口蓋ニ點狀粘膜炎下出血			全經過81日
33	小川		衄血				
34	佐藤			口臭、前後口蓋弓、咽頭側索軟口蓋ニ廣キ潰瘍アリ、壞疽性物質ニテ被ハル咽頭ノ壞疽急激ニ進行ス			入院後4日死亡
35	栃原			口臭、齒齦出血、壞疽	左右小指頭大、右側一部壞疽		受診後10日死亡
36	村田			口腔内ニ點狀出血アリ		百日咳、氣管枝炎ヲ併發	入院後11日死亡全經過26日
37	清原	耳鳴		齒齦出血			入院後18日死亡
38	佐田		衄血				
39	藤古			口唇貧血、舌ニ白苔アリ		咽頭粘膜炎輕度發赤	發病後4ヶ月死亡
40	田福			齒齦壞疽、口臭強シ			
41	蒲島			齒齦粘膜炎貧血性	發赤腫脹	左軟口蓋壞疽組織ニテ蔽ハル	入院後11日死亡
42	蒲島			口腔粘膜炎貧血性、口臭、齒齦潰瘍、出血	右拇指頭大、全面ニ潰瘍アリ		入院後25日死亡
43	大野			上下臼齒部紫藍色、牙關緊急アリ			入院後7日死亡
44	廣飯			下顎骨左犬齒部ニ壞疽潰瘍(末期)			發病1ヶ月後死亡
45	間渡		鼻汁過多		肥大		第33病日死亡
46	高楠			齒齦腫脹出血	發赤、腫脹、壞疽性左側ニ義膜アリ		入院1週間後死亡
47	高楠				壞疽性		發病40日後死亡
48	岩田			齒齦出血、潰瘍、口臭			入院13日後死亡
49	大南			齒齦壞疽出血、左頰部壞疽	輕度發赤		入院17日死亡
50	後砂			舌根部汚穢黃色ノ壞疽物ニテ蔽ハレ隆起ス舌(右)會厭窩會厭軟骨右扁桃腺間ニ潰瘍速ニ進行ス			發病後40日入院10日後死亡
51	松江			右上齒齦出血			入院9日後死亡
52	高橋			上第2臼齒ニ「カリエス」アリテ齒痛烈シ	肥大シ、ソノ部ヨリ出血多ク漸次壞疽性トナリ頸部諸臟器ニ波及ス		發病48日後死亡
53	中村			齒齦腫脹、潰瘍、出血	輕ク腫脹シ壞疽性ニテ出血ス		入院第6日死亡
54	淺野			齒齦黒褐色汚物附着シ、口臭強シ		咽頭發赤ス	
55	兒平			齒齦發赤腫脹、壞疽、出血			
56	宮内	難聴アリ、右鼓膜濁濁肥厚		齒齦ニ輕度ノ出血アリ		白血病性網膜炎	發病5ヶ月後死亡

57	大橋			齒齦壞疽、出血			發病1ヶ月後死亡
58	中村			齒齦潰瘍アリテ出血シ易シ			
59	下田			口腔炎、齒齦出血		視力減退網膜出血アリ	入院2ヶ月後死亡
60	下山		頑固ナ鼻血			視力障礙	腸出血ニテ死亡
61	金井	聴力左減退シメニール氏症候群ヲ訴フ		齒齦腫脹出血			入院18日發病後約50日死亡
62	廣瀬			右軟口蓋發赤腫脹	右側發赤腫脹シ周圍ニ切開創アリ	扁桃腺ノ分泌物ヨリ葡萄球菌、雙球菌	發病後40日入院後約1ヶ月死亡
63	有村		鼻血(常ニ鼻閉)				不明
64	高橋	稍々高度ノ難聴		著變ナシ			
65	石井	耳鼻咽喉科的ニ著變ナシ					發病後1ヶ月死亡
66	駒野	左難聴(發病後)		口唇貧血性			記載ナシ
67	吉矢, 加藤, 奥澤	耳鼻咽喉科的ニ著變ナシ					發病後3週間入院後3日死亡
68	富田			口臭強シ、齒齦頰側部、上下顎腫脹、口蓋齒齦側壞疽			入院後9日死亡
69	山崎		右鼻腔充血、凝血附着	上顎齒齦出血	左上顎潰瘍性腫大		第13病日死亡
70	石倉	中耳腔溢出血	鼻甲介浮腫狀血性鼻汁	壞疽性口臭、剖檢ニヨリ鼻咽腔ニ高度ノ壞疽アリ	浮腫狀ニ腫脹		受診後約4ヶ月死亡
71	平野		中鼻道中甲介ヨリ出血	口臭烈シ、右口蓋齒齦ニ汚穢ノ赤紫色ノ増殖様部アリ			入院後12日死亡
72	松本			齒齦壞疽	中等度發赤		入院後昏睡狀ヲ續ケ3日目ニ死亡
73	虎岩			口腔粘膜貧血、咽頭ニ點狀出血		牙關緊急腔壁ノ貧血性潰瘍	入院後約2ヶ月後死亡
74	陸路			口腔粘膜、口唇ニ出血斑	肥大發赤		入院後6日目死亡
75	陸路	難聴アリ		齒齦一部壞疽トナリ出血ス	肥大ス		入院ノ翌日死亡
76	陸路		鼻血	齒齦一部ヨリ出血	發赤肥大出血		入院1ヶ月後死亡
77	陸路			口腔粘膜ヨリ出血			入院後4日目死亡
78	陸路		鼻血(末期)				入院後約1ヶ月
79	陸路			齒齦出血	肥大(強度)		
80	陸路						
81	陸路	耳鼻咽喉科的ニ著變ナシ					入院後4日目ニ退院シ間モナク死亡セリト
82	陸路			齒齦出血			入院後8日目死亡
83	陸路		鼻口腔粘膜ニ異常ナシ				入院後約5ヶ月死亡
84	陸路	耳漏ナク耳閉アリ(?)		口腔粘膜著變ナシ	肥大著シ		入院後2ヶ月ニシテ呼吸困難ヲ起シ死亡
85	陸路			口腔粘膜ニ異常ナシ	肥大		入院4日退院後間モナク死亡
86	陸路		鼻口腔粘膜異常ナシ	口腔粘膜ニ僅ノ出血點			入院後2日死亡
87	安宅						入院後15日死亡
88	楠井				左側黃黑色		氣管支炎ヲ起シ入院後19日死亡
89	柴井						入院後10日發病後18日死亡
90	吉茂			上下齒齦腫脹、充血、出血	輕度腫脹	便潛血反應(+)	

91	山口			下顎齦齦潰瘍性出血	僅ニ發赤腫脹		入院後9日死亡
92	山口			6.5 4 頰側齦齦ヨリ頰粘膜ニ壞疽アリテ外頸部ニ通ズ			初診後60日死亡
93	牧野 秋吉			齦齦壞疽, 出血,	鳩卵大ニ發赤腫脹. 左側ノ中央ニ小豆大淺キ潰瘍アリ. 次第ニ擴大ス 輕度ニ腫脹		入院後10日死亡
94	大山大山 永山永山			上下齦齦ノ腫脹. 潰瘍, 壞疽			死亡
95	大山大山 永山永山			上齦齦腫脹. 潰瘍. 疼痛		右顔面浮腫狀	入院後2ヶ月ニテ死亡
96	大山大山 永山永山			5  ニ相當スル口蓋粘膜ニ潰瘍アリ擴大ス			受診後3ヶ月ニテ死亡
97	大山大山 永山永山			5  ノ部ノ齦齦壞疽. 周圍發赤腫脹			受診後50日死亡
98	岩井			齦齦, 口蓋粘膜壞疽			入院後8日死亡
99	津田	左外齦道及ビ兩鼓膜充血難聴	鼻粘膜蒼白	上顎齦齦及ビ硬口蓋潰瘍. 壞疽			入院13日目發病後30日ニシテ死亡
100	津田		鼻粘膜貧血性	上下齦齦充血. 潰瘍. 出血. 壞疽			入院後4日目發病後20日ニシテ死亡

### 第3章 總括並ニ考按

#### 其1. 性別

男子	61例
女子	36例
性不詳	3例

斯クノ如ク男子ニ多ク女子ニ少ク, Gibbert, Weil ノ男子ハ67%ナリト報告セル率ニ略々一致ス.

#### 其2. 年齢別

5歳未満	17例
6歳-10歳	12例
11歳-20歳	16例
21歳-30歳	22例
31歳-40歳	13例
41歳-50歳	6例
51歳-60歳	9例
61歳-70歳	3例
年齢不詳	2例

諸家ノ記載ノ如ク年少者ニ甚ダ多ク高年者ニ尠シ.

#### 其3. 耳鼻咽喉科領域ノ初發症狀

本症ハ頭痛, 四肢疼痛, 發熱等ヲ以テ急激ニ發病ス. 殆ド常ニ口腔内ニ障礙ヲ訴フ. 即チ「アンギーナ」, 口内炎等ノタメニ嚥下困難, 咀嚼時ノ疼痛及ビ齦齦ヨリノ出血等ヲ來シ, 又屢々潰瘍, 壞疽ヲ生ジ此ノ潰瘍, 壞疽ハ水痛様ニ

擴大スルコトアリテ重篤ナル状態ヲ招來ス. 之ヲ蒐集セル症例ニ就キ見ルニ, 次ノ如シ (第1表参照).

#### 耳症狀

難聴	3例
耳鳴	3例
眩暈	3例
重聽	1例

#### 鼻症狀

衄血	11例
鼻閉	1例
血性膿性鼻汁	1例

#### 口腔症狀

牙關緊急	2例
齒痛	6例
齦齦疼痛	5例
齦齦出血	28例
齦齦腫脹	15例
齦齦潰瘍	7例
齦齦壞疽	1例
舌出血	1例
口内出血	1例
口臭	5例

#### 咽喉頭症狀

咽頭痛	16例
-----	-----

嚔下痛	3例
嚔下困難	2例
扁桃腺壞疽	1例
扁桃腺偽膜	1例
呼吸困難	1例
發育障礙	1例

以上各項ハ本症ノ發病時即チ頭痛、發熱、四肢疼痛、全身倦怠等ノ發現セシ際ニ於ケルモノナルモ、是等自覺症狀ハ果シテ本症ニ基因セシモノナリヤ疑問ナシトセズ。

第45例ニ於ケルガ如ク初發時、口蓋扁桃腺ニ偽膜アリテ「デフテリー菌ヲ證明シ、血清注射後血液検査ニヨリ本症ノ診斷ヲ得タルガ如キ症例存スルモ、大多數ハ本症ニ基因セシモノナリト信ジテ可ナリ。

而シテ上記ノ如キ自覺症狀ヲ訴フルモノ67例ノ多數ヲ算シタリ。

#### 其4. 全身所見

##### 淋巴腺腫

腫脹強度ノモノ	3例
腫脹輕度及ビ中等度ノモノ	53例
腫脹ナキモノ	21例
記載ナキモノ	23例

##### 脾腫

腫脹セザルモノ	38例
不詳ナルモノ	5例
輕度ノモノ(+)	39例
中等度ノモノ(++)	5例
記載ナキモノ	13例

全身症候ハ淋巴性症ニアリテハ、全身ノ淋巴腺腫脹シ肝臟、脾臟、腫脹ヲモミル。

骨髓性症ニアリテハ頸部又ハ鼠蹊部其他ニ輕度ナルモ腫脹ヲ認ムルモノ53例ヲ算シ最多ク占メ、全身淋巴腺ノ腫脹ヲ認メシハ僅カニ3例ニ過ギズ。

故ニ淋巴腺ニハ輕度ノ腫脹ヲミルコトアリト言ヒ得ベシ。

脾臟ハ腫脹セザルモノ38例アリテ、輕度及ビ中等度ノモノ44例ニシテ慢性症ノ如ク著明ナラズ。

貧血ハ輕度ナリト雖モ殆ンド必發スルモノト

考ヘラルベシ。

#### 其5. 血液像

急性骨髓性白血病ニ於ケル血液像ノ特徴ハ骨髓性細胞ノ増加ニアリテ、白血球總數ハ多クハ慢性症ニ及バザレドモ、尙數萬乃至數十萬ニ達スルコトアリ。而シテ病勢ノ初期又ハ複雑セル敗血症様病變ノ合併セル場合等ニハ平常數ナルカ又ハ平常以下ニ低下スルコトアリ。

斯ク白血球總數ハ增多スルモ、症例ニヨリ又時期ニヨリ増減アリテ、ソノ百分率即チ骨髓性細胞ノ増加著明ナリ。

骨髓性細胞中幼若型多數ヲ占メ、成熟型僅少ナリ。即チ骨髓母細胞、前骨髓細胞最モ多ク、骨髓細胞、異骨髓細胞、桿狀核細胞、分葉核細胞等ハ比較的少シ。

赤血球ハ多クノ場合著シク減少シ、高度ノ貧血ヲ呈ス。稀ニ貧血ヲ缺クコトアリ。

余ノ蒐集檢索セル血液像ヲ表示セバ第3表ノ如シ。

赤血球、血色素及ビ白血球ノ増加、減少ノ著明ナルハ次ノ如シ。

赤血球400萬以上ノモノ11例。減少甚ダシク100萬以下ノモノ8例ニシテ、即チ94萬(症例14番高橋)、71萬(17, 田村)、84萬(37, 清原)、71萬(38, 佐藤, 田中)、74.5萬(65, 石井)、88萬(66, 駒野)、88萬(81, 陸路)、79萬(98, 岩井)等ナリ。

血色素ハ70%以上9例、30%以下19例ヲ算セリ。

白血球ハ40萬以上ノモノ7例ニシテ、44.3萬(16, 北野)、46.32萬(19, 澤田)、47.96萬(20, 吉永)、62.5萬(28, 木田)、55萬(31, 森戸)、137萬(55, 兒玉, 平山)、86.88萬(83, 陸路)等ノ甚ダシキモノヲ認ムベシ。之ニ反シ増加著シカラザルモノ乃至ハ反ツテ減少セルモノモ認メラレ、白血球數1萬以下ノモノ16例ヲ算セリ。

白血球百分率ニ於テ特徴トスベキハ、幼若骨髓細胞ノ出現ニシテ骨髓母細胞90%以上ノモノ13例ヲ算シ、即チ97%(18, 三浦)、95.05%(31, 森戸)、90.0%(47, 高楠)、94.4%(62, 廣

瀬), 95.6% (72, 松本), 91.2% (74, 陸路), 97.0% (75, 陸路), 96.0% (77, 陸路), 97.5% (81, 陸路), 95.6% (82, 陸路), 98.5% (83, 陸路), 92.8% (94, 大山, 吉永), 96.5% (95, 大山, 吉永)等ナリ。

前骨髓細胞ニ至リテハ次第ニ減少シ, 80%以上ノモノ5例ニシテ, 80.0% (15, 仁志田), 85.8% (24, 藤田, 佐々木), 87.7% (35, 栃原), 81.0% (54, 淺野), 87.5% (98, 岩井)等ナリ。

中性嗜好性白血球ハ尙次第ニ減少シ, 最高ハ, 69.6% (85, 陸路), 37.0% (67, 吉矢, 加藤, 奥澤), 33.5% (84, 陸路), 35.0% (71, 平野)ニシテ, 最モ尠キハ, 1.0%ニ滿タザルモノ9例, 0.3% (27, 森重. 49, 大橋, 南洞. 57, 大橋. 60, 下山, 陣内), 0.4% (82, 陸路), 0.5% (24, 藤田, 佐々木. 83, 陸路), 0.6% (95, 大山, 吉永), 0.8% (74, 陸路)等ナリ。

淋巴球ハ以上ノ細胞ニ相應ジテ僅少ニシテ, 正常平均値ヲ越ユルモノ7例, 即チ64% (7, 東), 49.5% (22, 天野), 85% (28, 木田), 55% (88, 楠井, 柴原), 46.75% (93, 牧野, 秋吉), 50.4% (大山, 吉永), 40.8% (97, 大山, 吉永)ナルモ, 甚ダシキハ1.0% (24, 藤田, 佐々木), 0.5% (48, 岩田. 75, 陸路. 81, 陸路)ニ低下セルモノアリ。

#### 其6. 耳鼻咽喉科領域ニ於ケル病變

之ヲ表示セバ第3表ノ如クニシテ, 耳鼻咽喉科領域ニ於ケル病變ノ記載アルモノ92例ノ多キニ及ベリ。

##### 1) 聽器病變

難聽	10
耳鳴	3
鼓膜發赤	2
兩側慢性中耳カタル	2
中耳溢出	1
化膿性中耳炎	2
メニール氏症候群	1

100例中僅カニ17例ニ於テ 自他覺的病變ヲ認めラレタリ。

然シナガラ聽器ガ白血病ノ經過中ニ侵サレル

コトハ屢々ニシテ, Vidalハ32例中3例, Isambertハ41例中4例ノ聽器障礙ヲ報告シ, 國次ハ臨牀上聽器障礙ヲ訴ヘザルモノニ於テ剖檢上白血病性病變ヲ認メタルコトヲ報告セリ。

本病ニ於ケル組織學的變化ハ主トシテ出血像ナリ。即チ皮膚, 口腔粘膜或ハ眼底ニ於ケルト同様, 聽器ノ各所ニ出血ヲ見ルナリ。

之ニ加フルニ溢血ニ伴ヒタル白血病的浸潤及ビ中耳, 内耳, 聽神經ニ於ケル定型的ノ炎症ヲ證明スルコト多シ。

外耳ハ本病經過中侵サル、ハ稀ナリト稱セラル。

中耳ニテハ鼓室壁ニ出血ヲ見, 又往々續發スル傳染ノタメニ中耳炎ヲ起ス。

蒐集セル症例ニ於テ, 中耳溢出1例, 化膿性中耳炎2例ヲ見タリ。

内耳ニ於テモ屢々出血ヲ來ス。出血ハ限局性又ハ廣汎性ニ來ル。廣汎性ニ出血セバ迷路ノ全腔血液ヲ以テ充滿セラレ, ソノ壓迫ニヨリ迷路, 形狀變化シ或ハ部分的閉塞ヲ來スコトアリ。神經上皮ノ壓迫ガ長期ニワタラバ神經末梢部ノ變性ヲ來スベク, 之ハ殊ニコルチ氏器官ニ於テ著明ナリ。

内聽道ニ於テハ聽神經, 顔面神經ノ神經鞘ニ沿ヒ出血及ビ細胞浸潤ヲ證明シ, 又神經ノモノニモ同様ノ變化ヲ來ス。

聽器ニ於テ變化ヲ來スハ第1ニ聽神經, 第2ニ迷路, 第3ニ中耳領域ナリ。

ソノ臨牀的所見ハ侵サル、部位, 方法, 範圍及ビ經過ニヨリ一様ナラズ。

内耳ニ於テ迷路出血ガ突然ニシカモ廣汎性ニ來ル場合, 例ヘバ蝸牛殼モ前庭器モ侵サル、ナラバ所謂メニール氏症候群ノ發現アリ。

中耳ニ於テハ定型的ノ鼓室出血ノ所見ヲ呈ス。

往々ニシテ鼓室溢血ニ細菌性傳染ヲ來シ, 急性出血性中耳炎ヲ起シ多クノ場合高熱ヲ發ス。聽神經及ビ中樞經路ニ白血病性病變起ラバ即チメニール氏症候群ヲ發ス。

斯ク聽器病變ハ屢々認メラル、モ蒐集例中,

他覺の所見ノ記載ハ僅カ7例ニ過ギズ。

本病ハ内科，小兒科及ビ齒科方面ヨリ報告サレヲルモノ多數ニシテ，若シ耳科學的方面ヨリ詳細ナル檢索ヲ行ハシカ，尙多數ノ病的所見ヲ發見シ得ルモノト思考ス。

2) 鼻腔病變

本病ハ出血性素質ヲ相伴フ時ハ屢々鼻血ヲ來ス。

余ノ蒐集セル症例中15例ニ於テ鼻血ノ發見セルヲ認メタリ。

Suchanec 顯微鏡下ニ鼻腔粘膜ヲ檢査シテ2, 3ノ動脈ガ類淋巴浸潤ヲ蒙リ脈管ノ近部ニハ著シク色素沈着シオレリト報告セリ。

鼻腔ニ於ケル著明ナル變化ハ鼻血ニシテ他ニ著變ハ認メズ。

3) 口腔及ビ咽頭病變

口腔ハ本病變ノ好發部位ニシテ，初期ニ齒齦ノ腫脹又ハ疼痛ヲ訴ヘ，絶ヘズ刺戟ヲ受クル部ニ先ヅ壞疽性ノ變化ヲ起シ暗褐色乃至紫黑色ヲ呈スベシ。

壞疽ニ陥イレル部ノ周圍ハ細キ暗紅色又ハ暗紫色ノ邊緣帶ニテ圍マレ此部ヨリ容易ニ出血ス。當初ハ止血容易ナルモ次第ニ止血シ難クナリ壞死組織ノ離脱ニヨリ生ゼル潰瘍部トノ間ヨリ絶ヘズ實質性出血ヲ來スベシ。

此ノ潰瘍，壞疽ハ急速ニ齒齦ヨリ口蓋，頰部粘膜ニ擴大スルモノニシテ時ニハ數箇所ヨリ始マリ互ニ擴大融合シテ廣汎ナル範圍ニ及ブ。今觀察セル症例ニ就キテハ，

齒齦粘膜腫脹	16	
齒齦粘膜出血	52	
内	潰瘍壞疽ノ存スルモノ	30
	潰瘍壞疽ノナキモノ	2
	記載ナキモノ	20
口腔粘膜出血	9	
口腔粘膜壞疽	3	
舌出血	2	
口唇出血	1	
咽頭點狀出血	1	
口臭	17	
口蓋壞疽	3	

口蓋腫脹	1
咽頭發赤	3
齒痛	1
牙關緊急	1

口蓋扁桃腺ハ全身淋巴腺ト相俟ツテ病變ヲ現ハスコト自明ニシテハ白血病ノ扁桃腺肥大ハ白血病ニ於ケル初期硬結ト稱セラレソノ初發症候トシテ來ルコト稀ナラズ。

淋巴性白血病ニ於テ淋巴腺ノ病變ハ殆ンド必發ノモノノ如クナルモ，骨髓性白血病ニハ左程多數ニ認メラレズ。故ニ扁桃腺ノ腫脹モ淋巴性症ヨリハ少キモノト思ハル。

ソノ變化ハ次ノ如シ。

口蓋扁桃腺肥大	14
口蓋扁桃腺壞疽出血	8
口蓋扁桃腺出血	4
口蓋扁桃腺潰瘍	4
口蓋扁桃腺發赤	9

而シテ口腔及ビ咽頭ノ潰瘍，壞疽ハ原發性ノモノナリヤ，又續發性ノモノナリヤ未ダ明ラカナラズ。

Hanszel ハ咽頭病變ハ原發性ニ來ルコトアリト言ヒ，口腔，咽頭ハ機能上物理學的，化學的刺戟ヲ受クルコト他臟器ノ比ニアラズ。

又各種細菌ヲ藏シ，之等刺戟及ビ細菌ガ本病ノ如キ全身諸器官ノ抵抗減弱セルニ際シ，潰瘍，壞疽ノ發生ヲ促スコトモ首肯セラルベシ。

故ニ之ガ成立機轉ニ關シテハ尙詳細ナル研究ノ餘地アリ。

4) 喉頭及ビ氣管病變

本部位ニ於ケル病變モ他ト同様ニ出血像及ビ細胞浸潤ナリ。粘膜ニ細胞浸潤シ，爲メニ呼吸困難ヲ起シ，更ニ進ミテ潰瘍ヲ形成シ出血ヲ來ス。本病變ノ蒐集例ニ於ケル記載ハ呼吸困難及ビ發音障礙各1例ニシテ僅少ナルモ，果シテ實際ニ於テ然ルヤ，多クノ症例ニハ充分ナル觀察ノ記載ナシ。

聽器ニ於ケルト同様我科領域ノ嚴重ナル檢索ヲ遂行セバ，尙多數ノ興味アル所見ヲ發見シ得ルナラン。

## 其7. 豫後

本病ニ於ケル豫後ハ絶對ニ不良ナリ。

豫後ノ記載ナキモノ20例ヲ除キ、第12例三

村、水島ノ例ノ口腔病狀輕快ニヨリ内科的ニ治療中ナルモノ以外ハ總テ、速ナルハ數日遅クトモ1、2箇月中ニ死ノ轉歸ヲトレリ。

## 第4章 結 論

余ハ本邦文獻ニ記載サレタル急性骨髓性白血病ノ100例ヲ選ビ、之ガ統計的觀察ヲ行ヒテ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

1) 性別的ニ男子61例、女子36例アリ。

2) 年齢的ニ少青年者ニ多ク年齢ト共ニ減少セリ。

3) 初發症候トシテ耳鼻咽喉科領域ニ訴ヘアリシモノ67例ヲ算シタリ。就中多キハ衄血、齒齦出血、齒齦腫脹、咽頭痛等ニシテ鼻腔、口腔、咽頭ニ於ケルモノナリ。

4) 全身所見トシテ淋巴腺腫脹強度ノモノ3例、輕度及ビ中等度ノモノ53例ナリ。脾腫ハ輕度及ビ中等度ノモノ43例ヲ算シタリ。共ニ淋巴性症ヨリ少キガ如シ。

## 5) 血液像

赤血球ハ400萬以上ノモノ12例ニシテ減少甚ダシク100萬以下ノモノ8例ヲ算シタリ。

血色素ハ甚ダ減少シ70%以上10例、30%以下18例ニ及ベリ。

白血球總數ハ大多數ニ於テ増加シ、40萬以上7例アリ。

ソノ百分率ニ於テ骨髓母細胞ノ出現最モ多ク、90%以上13例ニ及ビ、前骨髓細胞ハソレヨ

リ減ジ80%以上5例ニシテ、骨髓細胞、異骨髓細胞ニ至リテハ更ニ減ジ、中性嗜好性白血球ハ最高69.6%ナルモ1.0%ニ及バザルモノ9例ヲ算シタリ。

淋巴球ハ以上ノ細胞ニ相應ジテ減少セリ。

## 6) 耳鼻咽喉科領域ニ於ケル病變

聽器ニ於テ自他覺的所見ノ記載サレアルモノ17例ニ過ギズ。

鼻腔ニテ顯著ナルハ衄血ナリ。

口腔、咽喉ニテ多キハ齒齦粘膜ノ腫脹、出血、潰瘍、壞疽、口臭、口蓋扁桃腺肥大、發赤、壞疽、出血等ナリ。

喉頭及ビ氣管ニ於テハ病變ノ記載僅少ニシテ呼吸困難及ビ發音障礙各1例ノミナリ。

以上各病變ノ記載アルハ100例中92例ノ多キヲ算シタルヲ以テ、急性骨髓性白血病ニ於テハ殆ンド總テ耳鼻咽喉科領域ノ病變ヲ具備スルモノト言ヒ得ベシ。

7) 豫後ハ絶對ニ不良ナリ。1例ノミ症狀輕快セルモノアリ。

擱筆スルニ臨ミ御教示、御校閲ノ勞ヲ賜リタル恩師松田教授ニ滿腔ノ謝意ヲ表ス。

## 文 獻

- 1) 石橋信之、日本内科學雜誌、19卷、10號、1186。
- 2) 國武保夫、愛大同門會々報、2號、38。
- 3) 島崎國次、日本内科學雜誌、20卷、3號、521。
- 4) 山田重正、平井長、臨牀小兒科雜誌、6年、3號、241。
- 5) 柏原啓、滿洲醫學雜誌、16卷、1號、1。
- 6) 東勝司、兒科雜誌、382號、590。
- 7) 菅野一、大林達三、倉敷中央病院年報、6年、2號、199。
- 8) 濱邊文雄、九州醫學會雜誌、35回、19。
- 9) 矢倉俊行、耳鼻咽喉科臨牀、28卷、1號、153。
- 10) 三村勝隆、水島亨、海軍々醫會雜誌、22卷、3號、248。
- 11) 木内勝男、朝

- 鮮醫學會雜誌、23卷、4號、615。
- 12) 高橋初夫、實驗消化器病學、8卷、11號、1336。
- 13) 仁志田昇、日本醫科大學雜誌、4卷、9號、1392。
- 14) 北野伊八郎、大日耳鼻、39卷、7號、828。
- 15) 田村尚、日本内科學雜誌、21卷、11號、1391。
- 16) 三浦益男、日本内科學雜誌、21卷、10號、1301。
- 17) 澤田敬義、診斷ト治療、21卷、1號、86。
- 18) 吉永直胤、東京醫事新誌、2873號、893。
- 19) 天野匿、兒科雜誌、40E號、276。
- 20) 眞砂綾子、愛知醫學會雜誌、41卷、6號、921。
- 21) 藤田喜壽、佐々木久之、耳鼻咽喉科、7卷、8號、

697. 22) 高津忠夫, 兒科雜誌, 412號, 1355.  
 23) 上坂信孝, 耳鼻咽喉科, 7卷, 8號, 706.  
 24) 森重大作, 臨牀小兒科雜誌, 8年, 8號, 703.  
 25) 木田文夫, 日本內科學雜誌, 22卷, 11號, 1345.  
 26) 穗積鑑一, 浦城二郎, 外山孝三, 醫事公論, 1145號, 4. 27) 都築正男, 實驗醫報, 246號, 912. 28) 森戸耕作, 日新醫學, 22年, 12號, 1709. 29) 松尾巖, 順天堂醫事研究會雜誌, 574號, 45. 30) 小川義男, 海軍々醫會雜誌, 24卷, 4號, 349. 31) 佐藤中夫, 大日本耳鼻, 41卷, 7號, 941. 32) 柄原義人, 日本齒科口腔科學會雜誌, 57號, 1. 33) 村田廣次, 兒科雜誌, 426號, 1536. 34) 清原蕃郷, 海軍軍醫會雜誌, 24卷, 6號, 562. 35) 佐藤久, 田中源之助, 兒科雜誌, 428號, 174. 36) 古庄乙彦, 長尾重人, 熊本醫學會雜誌, 11卷, 8號, 1007. 37) 田中利雄, 藤原二郎, 實地醫家ト臨牀, 12卷, 12號, 1323. 38) 蒲島敏雄, 大日本耳鼻, 42卷, 1號, 122. 39) 大野章三, 實地醫家ト臨牀, 13卷, 3號, 243. 40) 廣田寛治, 飯野玄伍, 大日本耳鼻, 42卷, 5號, 712. 41) 小山三郎, 東京醫事新誌, 2897號, 1797. 42) 間島英夫, 渡邊芳雄, 日本傳染病學會雜誌, 10卷, 9號, 1089. 43) 高橋武夫, 大日本耳鼻, 41卷, 10號, 1349. 44) 岩田芳郎, 長崎醫學會雜誌, 14卷, 8號, 1220. 45) 大橋二郎, 南洞成穗, 口腔病學會雜誌, 10卷, 2號, 226. 46) 後藤修二, 砂田知一, 大日本耳鼻, 42卷, 10號, 1556. 47) 松江龍一, 廣島病院同好會會報, 2卷, 5號, 541. 48) 高橋末雄, 日本醫科大學雜誌, 7卷, 5號, 527. 49) 中村元, 九州醫專醫學會雜誌, 1卷, 3號, 251. 50) 淺野豊, 市立札幌病院醫誌, 2卷, 3號, 47. 51) 兒玉榮一郎, 平山照男, 内外治療, 12年, 3號, 333. 52) 大橋二郎, 醫界展望, 118號, 23. 53) 中村博郷, 海軍々醫會雜誌, 26卷, 3號, 253. 54) 下田光造, 大阪醫事新誌, 8卷, 4號, 544. 55) 下山政人, 陣内日出二, 海軍軍醫學雜誌, 26卷, 7號, 576. 56) 金井泉, 海軍々會雜誌, 17卷, 6號, 502. 57) 廣瀬甚吾, 大日本耳鼻, 43卷, 9號, 1548. 58) 有村功, 兒科診療, 4卷, 1號, 60. 59) 高橋慶藏, 東北醫學雜誌, 21卷, 6號, 695. 60) 石井秀夫, 日本內科學會雜誌, 25卷, 10號, 1351. 61) 駒野野夫, 日本內科學會雜誌, 25卷, 10號, 1363. 62) 吉天久一, 加藤靜庵, 奥澤豊, 臨牀小兒科雜誌, 12年5號, 435. 63) 富田靖一, 大日本耳鼻, 44卷, 7號, 1495. 64) 山崎豊, 大日本耳鼻, 44卷, 9號, 1835. 65) 石倉武雄, 關三郎, 大日本耳鼻, 44卷, 7號, 1494. 66) 平野文雄, 日本醫事週報, 2147號, 370. 67) 松本一男, 朝鮮齒科醫學會雜誌, 11卷, 3號, 14. 68) 虎岩頼勝, 東北醫學雜誌, 24卷, 4號, 336. 69) 陸路四司彦, 日本血液學會雜誌, 3卷, 2號, 258. 70) 安宅辰之助, 北越醫學會雜誌, 54年, 5號, 510. 71) 桶井賢造, 柴原正明, 長崎醫學會雜誌, 17卷, 3號, 657. 72) 薄井丙午郎, 日本內科學雜誌, 27卷, 1號, 36. 73) 吉茂正規, 兵庫醫學, 5卷, 1號, 53. 74) 山口保, 齒科月報, 19卷, 1號, 18. 75) 牧野泪, 秋吉正豊, 口腔病學會雜誌, 13卷, 5號, 405. 76) 大山籍次郎, 吉永鴻, 臨牀齒科, 11卷, 11號, 1291. 77) 岩井英男, 診療ト經驗, 4卷, 1冊, 75. 78) 種村龍夫, 豊田文一, 栗山要一郎, 大日本耳鼻, 41卷, 12號, 1909. 79) 關根豊之助, 大日本耳鼻, 33卷, 5號, 315. 80) 金子玄策, 山田芳雄, 齒科醫學, 3卷, 2號, 158. 81) 津田三郎, 醫事公論, 1517號. 82) 小宮悅造, 臨牀血液學, 昭和 年. 83) 細谷雄太, 全身諸病ニ併發スル耳鼻咽喉頭科疾患. 昭和5年. 84) J. Arneht: Die speziellen Blutkrankheiten. 1928. 85) J. Bumba: Die Affektion des Rachens, der Mundhöhle, des Kehlkopfes und der Luftröhre bei allgemeinen Krenkheiten des Organismus des Haematopoetisch und des lymph-Apparatos. Denker's Handbuch d. H. N. O. Bd. 5, 1926, P. 46. 86) A. Thost: Blutungen aus den Luftwegen bei Leukämie Denker's Handbuch d. H. N. O. Bd. 4, 1926, P. 693. 87) R. Imhofer: Nasenaffektion bei Chlorose, Leukämie und Pseudoleurämie. Denker's Handbuch d. H. N. O. Bd. 5, 1926, P. 7. 88) L. Lederer: Erkrankungen des Gehörorgans bei Erkraukungen der haematopoatischen Organen Denker's Handbuch d. H. N. O. Bd. 6, 1926, P. 698.